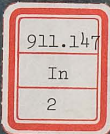




日水一首基前抄

中

































无祖不見云一說豐前守旁則男之云一說鏡前守

[illegible]

文屋朝康  
先祖不見

延表二季住大舍人、先云

[illegible]

三柳の枝のわけるを西へ事してぬきりてとて  
美柳の糸よりけく白糸と事してぬきりてとて柳の

清原深養父

夜乃長

寧

わい

100

月  
下  
石  
之



文全綱康

志氣風の吹

煇乃

修  
ぬ  
り

二

ら  
き  
ふ









平兼盛 從五位 駿河守  
光孝天皇 是忠親王

真雅王  
篤行

兼盛  
赤珠

後撰集ニハ系盛王トアリ。袞衣双紙ニ天曆ノ  
比ヨリ平ノ姓ニカルモアリ

[illegible]

忠實 忠岑子 天保二年任  
見本名忠實 忠岑子 天保二年任  
津大目 サシメ

[illegible]

平兼盛

要

卷之六

我  
急  
乃

まの  
あし

人のふ



壬生忠見

意とふ

六

卷之五

人あれど

あ  
い  
ろ  
う





















































[illegible]

遺雅 脚内大臣伊周、公男母、大納言重光女  
伊周 道雅 從三位左京大夫

女子  
上東門隱女房  
宣旨後拾實作者

後拾遺集才十三卷三例也。伊勢母史也。

づよりほろのかりてゆるくよあひひて通徳々  
 ろもと。おほやけもきこーやしてまじやめんと  
 づのせりひてあひもむつとまじやにたれど  
 よもゆるうたの

[illegible]

柳葉や志を遂めんとあはれむる方のみか

今へ只一  
巻をくべて三巻なり。又字を裁

唯ふてもおのゝ助張りよとてわ

ては、甘んじ、しるは蜜通病歌、これバ、子び多

いふゝみえにべしハ多方のわらひも蓋なりと

○

唯天のえんふと申の云なりとも人傳ふて

しるしの深紅なるわろに今も思ふ人

上白表木さう船夜（或後よ）一筆流の重女泣き了

新之世息金万子みおとより後、  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

三行 幸 乃 七 五 乙 午 乙 未

卷之二十一

三  
大史  
乃權

今  
乙

卷之五

とけり

人はい

子



よゐあが



A small illustration of a traditional Chinese building with a tiled roof and a sign. The building is shown in a perspective view, with a tiled roof and a sign hanging from the eaves. The sign has a character that is partially obscured but appears to be '人' (person). The building is surrounded by a fence or wall.

A close-up photograph of the fore-edge of an old book. The binding material, likely leather or a similar dark material, is visible along the left edge. The pages are aged and yellowed, with some visible wear and discoloration. The text on the pages is not clearly legible in this view.





















▲後松田集秋上歌——いとしをわに。去首曰  
知たふさの心をわたつとも同じにかわえし。  
我やとのさえてはなしてまひ——とこひまひ  
ていつくちもゆるぎやと立想するうちあがけれ  
も心にも又わが愛のあきらめゆじまされ  
のまひ——さな——そとち夢うつつかゝるその  
身へくることをしてそれだけ感ずる餘情  
をあらわす定意なのをた

秋ふとあめりてそくも知る所いづれののめたへともあり  
 とありあらはち候ぞわろ。かゝ又同じ。從軍ある感か  
 くはるべしといふ解しこゝやうありやと宿を思ふとも  
 秋なりかの氣にもなれば、堪ざると思えたり。又三象ハ  
 一勢とてなれさうりのとをよめて見ると一と云ふ  
 旅邊ぬれりかの宿も山野ありふしも月やすじん  
 後松達より遠は所大原にとて居ねとすて候なり  
 みまわりおつちのあらう廣すとて八月のうけのうら  
 夜へとも月さうらん大雲やわりの風ありとむる中と良置

鍾倫授中興侯乃正二任授大納言  
中興吉孫通方男 母源國盛女  
二子多天皇 敦實親王（アノリヲ） 一品皇子

雅信ニリク 一条左大臣  
重信ニリク 三条左大臣  
道方ミチカタ 中納言  
經信ノリノブ 左衛門少輔  
俊成トシナリ 右大臣  
俊成トシナリ 右大臣

金葉集卷三秋蛇詞は肝賢物にの種傳の云置よ  
人々よりて思家乃風風とまゝをうろふとわづ。  
玉面の云。若の丸屋といふやうな声なりを傳へる也  
も門田のいふ云はたきもの秋風さめくもかと思れど  
さうもあらずやぞき風の風情をりし知る。毎々のかゝるべ  
らと云ふ。又タナレのやと云ふ同かたぐへ。またバタナレのり  
何ハト云ふ。またタナレのタナレの云々など。但茲流和尙  
のをし唐ば束の百首よ。タナレの教とされうに唐人詩の  
ある所の邊の松風とわづ。却は同筆のをゆへんとした外  
えとわづ。さりながら字彙表のよりとを所讀入への附けり。

九

田の面をくまなく耕すは、  
田の風やまじりの丸やまじりなり

良選師

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



大納言經信

たゞれへ門田の  
いよそ  
わの  
丸金に  
秋風  
て  
く





皇子 紀伊 金葉 宮紀伊トリ同ノ 紀伊守

皇孫妻タリ故ニ紀伊ト云

桓武天皇 葛原親王 高棟 惟範 時望

眞村 親信 行義 範邸 紀方 女 紀伊

皇子内親王 後朱雀院ノ皇子 後三条院ノ見才云

○紀伊 ｷｯｷﾘ ヨム 振津 ヲツハカリ ヨム 付

金葉集才ハ云下 堀河院ノ御覽云云 公ニ云 後忠

人ニ云 ぬきわり ちの 後忠のちをいふ 後忠云

と云 ちの 後忠云 公ハ後忠のちをいふ 公云

けり 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

わき 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

ちの 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

ちの 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

神の 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

と云 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

と云 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

と云 公の 後忠のちをいふ 公云 公云

と云 公の 後忠のちをいふ 公云 公云



岩 叢書



